

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英) | 情報デザイン2 (Information Design2) | | 授業コード | C088801 |
| 担当教員名 | 伊藤 研、坪倉 篤志 | | 科目ナンバリングコード | |
| 配当学年 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 後期 | |
| 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 2 | |
| 履修上の注意または履修条件 | 情報デザイン1を受講していることが望ましい。 | | | |
| 受講心得 | 皆さんの身近な映像メディアや映像作品＝テレビ、ビデオ、DVD、映画に含まれている情報を、「対象」と「目的」を考えながら見る習慣を付けてください。 | | | |
| 教科書 | 講義資料を配布します。 | | | |
| 参考文献及び指定図書 | 映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編 映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編 分かりやすい文章の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 分かりやすい表現の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 分かりやすい説明の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 情報を見せる技術 中川佳子(光文社親書106) 一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社 | | | |
| 関連科目 | 情報デザイン1、映像1、映像2、プロジェクト演習1、プロジェクト演習2、プロジェクト演習3 | | | |

| | |
|-------|--|
| 授業の目的 | 現代の情報デザインは、映像抜きに考えることが出来ない段階に入っています。映像をきちんと使いこなす能力を身につけることは、ITデザイナーをめざす学生諸君にとっては必須の課題といえるでしょう。情報デザインは、表現に芸術的なセンスが求められはしますが、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「誰かに何かを誤解させることなく伝える」という機能が求められています。それでは、映像をほかの表現メディアとどのように組み合わせればよいのでしょうか。そのためには、映像がメディアとしてどのような特性をもち、どのように構成されているのか、また、どのような効果が発揮できるのかを知ることが欠かせません。 本科目では、情報デザイン1で修得したシナリオ構成力をベースとして、オープンスタジオの映像機器の使用法を実習を通して身につけます。さらに、フィールドカメラとノンリニア編集システムを使用して、チームでの作品制作を通して総合的な映像表現能力の修得を目指します。 |
| 授業の概要 | 企画書、シナリオの作成、撮影・編集機材を用いた実践的な作品制作を中心に授業を進めます。毎回、分析結果、進捗報告書、あるいは作成物をレポートとして提出します。 |

| ○授業計画 | |
|--|--------------------------|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第1週: ビデオカメラの構成と使用 ビデオカメラ各部の名称、パラメーターの調整、テープの装填、三脚の設置、三脚への装着、撮影の仕方、撮影後のテープの管理など、映像表現のベースとなるビデオカメラ使用法を身につけます。 | 第1週目に配布する学修ノートの精読と意味の確認。 |
| 第2週: 撮影画角の知識 フレームサイズ、画角、カメラアングル、アイリスの手動調整などを、実際にビデオカメラを使って撮影しながら確認し、身につけます。 | 第1週目に配布する学修ノートの精読と意味の確認。 |
| 第3週: 撮影の知識 カメラワークと照明法について、実際にビデオカメラや照明器具を使って撮影しながら確認し、身につけます。 | 第1週目に配布する学修ノートの精読と意味の確認。 |
| 第4週: | |

| | | |
|---|----------------|----------------------------------|
| 映像構成上のルール 「上手と下手」、イマジナリーラインについて、実際にビデオカメラで撮影しながら確認し、身につけます。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第5週： ビデオカメラ操作実習(仕上げ) これまでに学んだ知識を、実際にビデオカメラで撮影しながら確認し、身につけます。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第6週： オープnstudio機材の解説 オープnstudio内サブスタジオの収録機器それぞれの機能や使用法を説明し、本学 科での映像表現のベースとなるスタジオ機材の使用法に関する知識を、実際にクロマ キー合成などを行いながら身につけます。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第7週： オープnstudio機材の使用法 スタジオ機材の立ち上げとクロマキー合成+撮影サイズ+カメラの切り替え+照明 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第8週： オープnstudio機材の使用法 チームで作成した絵コンテにしたがった撮影1. | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第9週： オープnstudio機材の使用法 チームで作成した絵コンテにしたがった撮影2. | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第10週： オープnstudio機材の使用法 チームで作成した絵コンテにしたがった撮影3. | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第11週： オープnstudio機材の使用法 チームで作成した絵コンテにしたがった撮影4. | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第12週： 作品制作実習 フィールド機材およびノンリニア編集システムを使用して、各チームで環境を考える60 秒映像作品を制作する。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第13週： 作品制作実習 フィールド機材およびノンリニア編集システムを使用して、各チームで環境を考える60 秒映像作品を制作する。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第14週： 作品制作実習 フィールド機材およびノンリニア編集システムを使用して、各チームで環境を考える60 秒映像作品を制作する。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第15週： 作品制作実習 フィールド機材およびノンリニア編集システムを使用して、各チームで環境を考える60 秒映像作品を制作する。 | | 第1週目に配布する学修 ノートの精読と意味の確 認。 |
| 第16週： 作品講評 完成した各チームの映像作品を講評し、映像表現上のポイントなどの理解を深めま す。 | | |
| 授業の運営方法 | (1)授業の形式 | 「演習等形式」 |
| | (2)複数担当の場合の方式 | 「共同担当方式」 |
| | (3)アクティブ・ラーニング | 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| 地域志向科目 | | |
| 備考 | | |

| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
|----------------------|--|
| 【関心・意欲・態度】 | 綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。 |
| 【知識・理解】 | 綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | 綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。 |
| 【思考・判断・創造】 | 綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。 |

| ○成績評価基準(合計100点) | | | 合計欄 | 100点 |
|---|-----------------|---------------|--------------|------|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) | |
| 【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | 25点 | | |
| 【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。 | | 30点 | | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | 30点 | | |
| 【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。 | | 10点 | 5点 | |

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
| レポート・作品等(提出物) | [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 |
| 発表・その他(無形成果) | |